



うめまる広場

II

令和6年度UDCOD活動報告シンポジウム



令和6年度UDCOD活動報告シンポジウム

みんなで考えよう！ 市民とまちをつなぐアーバンデザイン

日時：2025年3月1日（土）13:30~16:15

場所：ハルネ小田原 うめまる広場 参加者：約80人

プログラム

開会あいさつ

後藤 純（UDCOD副センター長・東海大学建築都市学部 准教授）

第1部 活動報告 13:40~15:05

① 小田原駅周辺地区のアーバンデザインビジョンを描く

林 一則（UDCODディレクター・NPO法人アーバンデザイン研究体 理事）

② 昭和の板橋〜なりわいと賑わい〜

稲益 祐太（UDCODディレクター・東海大学建築都市学部 特任准教授）

梶村 駿介、穴戸 あかね、山谷 謙太（東海大学建築都市学部有志学生）

③ エイジフレンドリーシティのつくり方

後藤 純（UDCOD副センター長・東海大学建築都市学部 准教授）

④ 西海子^{さいかい}の資源を再認識し、新しい使い方を考える

野口 直人（UDCODディレクター・東海大学建築都市学部 講師）

⑤ 史跡があるまちなかの楽しい日常の創出に向けて【小田原市事業】

岡部 友彦（コトラボ合同会社 代表）

第2部 パネルディスカッション 15:15~16:05

「市民と小田原駅前をつなぐアーバンデザイン」

【コーディネーター】

後藤 純（UDCOD副センター長・東海大学建築都市学部 准教授）

【パネリスト】敬称略・五十音順

岡部 友彦（コトラボ合同会社 代表）

加藤 憲一（小田原市長）

作山 康（UDCODディレクター・芝浦工業大学システム理工学部 教授）

中津川 毬江（UDCOD市民研究員・一級建築士事務所nias 共同主宰）

信時 正人（UDCODエグゼクティブアドバイザー・UDCイニシアチブ 理事）

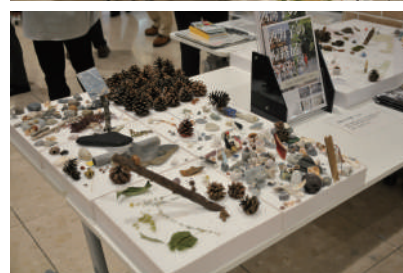
総括

杉本 洋文（UDCODセンター長・元東海大学教授）

※グラフィックレコーダー 石本 玲子（合同会社けろり 代表）



第1部活動報告の様子



会場の展示物／上：小田原の都市模型、
下：西海子小路周辺地区の活動での制作物

[パネルディスカッション]

市民と小田原駅前をつなぐアーバンデザイン

小田原の10年先を見据えて

後藤 テーマは「市民と小田原駅前をつなぐアーバンデザイン」ということで、だいたい10年くらい先を見据えて何をやっていったらいいか……。10年先もインバウンドは続いているのでしょうか。考えると悩ましいものがありますね。

まずは、岡部さんから「10年先を見据えとこんなことが大事だ」というお話をお願いします。

岡部 実証実験「ステキなみちくさ」（右上図）では、日常的な活動としていろいろな方に弁財天通りの史跡整備予定地を使っていただき「放課後、子どもたちが待ち合わせて遊ぶようになった」「お母さん同士がつながれた」というような声が届きました。近所の方が片付けを手伝ってくれたことや、高校生と小学生と一緒に遊んでいる風景をつくられたことも良かったと思います。

大きな仕掛けは必要なくて、シンプルに「遊ぶ」という行為でつながりが生まれたことが大切なのかな

と。使い方の仕組み、人の巻き込み方をデザインできれば、こういった場所を日常的に生み出せるかもしれません。「ステキなみちくさ」に来てくれたお母さんが、小さな音楽会を開催し、20～30人の家族が集まったんですね。こんな風に、自分で企画して使い倒せるような人が増えてくるとステキだと思います。

後藤 10年先を見据えて、外から来た人に見て欲しい場所を、市長からベスト3をお願いします。

加藤 第3位からいきますと、かまぼこ通りの山車小屋界隈の風景です。ここといい勝負なのが板橋の香林寺から小道を見たところ。第2位は西海子小路。住民にとっても来街者にとっても魅力的な空間だと思います。第1位は、なんと言ってもお堀端ケルツです（右図）。celts Café&Barの前から見た風景は、お城を持つ市民として誇らしいもので、いつもお客さんを案内している場所です。



ステキなみちくさ／公共空間が日常的にさまざまな人に活用されるために必要な環境整備の検討や、活用を担う人材の発掘を目的に、市民と共に公共空間を活用する実証実験。



お堀端の風景／学橋越しに三の丸ホール、三の丸小学校、隅櫓すみやぐらが見える。春にはお堀沿いの桜が美しく多くの観光客でにぎわう。

私たち市民にとっては当たり前になっていますが、「小田原ならではの」を再認識する必要がありますね。私が子どもの頃にあった風景で、なくなってしまったものも多々ある。これからつくっていく風景をどうしていくかの観点は大事だと思います。



コトラボ合同会社 岡部さん

後藤 小田原には、いいところがたくさんある。でも維持していくのは大変ですね。岡部さん、コトラボとしての活動の中で大事だと思うことはありますか。

岡部 誰もがアクションしやすい環境をどうつくれるかが大事だと思いますね。

先ほど話題にした音楽会も、それを見て私もやってみたいという人が出てくる。そういうことが日常的に起こってくると機運が変わっていく。それが、その場所のオリジナリティをつくることにつながっていったらと思います。

後藤 作山先生。10 年先を見据えて、残した方がいいもの、思い切ってやめた方がいいものがあれば。

作山 都市計画プランナー、アーバンデザイナーの立場でお話します。

近世のお城や城下町の方が知られていて、中世からある歴史のまちは認識されにくい傾向があります。その中で、小田原に住んでいる若い人が歴史を感じにくいということに課題がありますね。

明治から昭和初期の歴史、板橋^{さいかち}や西海子小路、かまぼこ通りも魅力的です。でも、初めて小田原に来る方は板橋まで足を運ぼうとは思わないですね。小田原用水とかも見てもらいたいですけど、それって通ですよ。市民向け、来街者向けのレイヤーがそれぞれあっていいと思うんですね。共通するのは小田原駅を降りて、どこかで待ち合わせをすること。わくわくドキドキするような、魅力的な待ち合わせ場所があるといいですね。

アーバンデザインセンターとは

後藤 信時先生から、アーバンデザインセンターはどんなことをやるのか、どんなものなのか、お話いただけますか。

信時 UDC は全国に約 30 か所あるんですね。そのうちの 하나가 UDCOD です。第1号のUDCK[※]ができたのは 2006 年。公と民と学が

後藤 ダイレクトに歴史の部分になってしまうと難しい。余白の部分がある種、風情の部分かもしれないですね。お金を使わないと居られないというのは寂しいですね。時間をたっぷり使える場所が小田原は少ないのではという視点ですね。市長はどう思われますか。

加藤 よく言われますが、若い人たちが溜まる場所、お子さんを連れて過ごす場所が少ないということです。外からお越しになる方、買い物に来る方のためにできているまちなので、生活者が楽しむ場が残っていない。地域に暮らすという視点からのまちづくりが弱い。そこが、これからの大きなポイントかなと思います。

三位一体で力を合わせてやるのがアーバンデザインセンターですね。

当時はウォーターホール型といって、国交省が都市計画の枠組みをつくって、それを受けて自治体が条例化し、その中で民間企業が開発する。一般市民の方々は、それを甘んじて受け入れるということだった。これからはアジャイル型です。

行ったり来たりしながらまちをつくる
ことが重要ということですね。

市民の皆さんは専門家ではない
ですが、住むことから逃げられ
ない。逆を言うと住むことについ
ては専門ですね。その意見、感性を
専門家に伝えて形にしてもら。そ
ういうやりとりをしないと、これか
らはまちをつくれな。今日は第1部
で先生方から活動報告がありまし
たが、先生方だけではなくて、こ
れからは市民の皆さんが中心に
なっていく必要があります。

UDC では、公と民と学が円卓を
囲んで垣根なく、仲良く話をする機
会を持つべきと考えています。

UDCK での写真があります（下
図）。三井不動産が作った模型を
囲み、柏市役所や千葉県庁、自治
会、商工会議所の方々などがプロ
ジェクトの最初か

ら参加してアジャ
イル型の開発を進
めてきています。
開所当時は、柏
市役所や千葉県
庁には、まちづく
り関係の会議は必
ずここでやってく
ださいと申し上げ
ました。縮尺が

1/1000 の都市模型を前にして話す
ことは、話に具体性が生まれて価
値があるんです。

※UDCK：柏の葉アーバンデザインセンター（千
葉県柏市）

後藤 ここまでを整理しますと、小
田原は魅力的な空間があるけど、
その風情はまちの余白にこそある。
このままではそれが、失われていっ
てしまうかもしれない。これからやっ

ていかなくはならないことが、いっ
ぱいありそう。

そのために、UDCKのように公・
民・学で連携する拠点をつくってい
くということを我々は知恵を絞って
やっていかなくはならないです
ね。大きい拠点が必要なわけでは
ない。みなさんの力で一緒にやっ
ていかなくはならない、という話
だったと思います。

小田原市民のための居場所

後藤 では、小田原市民のため
にはどんな居場所が必要なのか。中
津川さんから市民目線でのお話し
をお願いします。

中津川 私には2歳の娘がいます
が、子育て世帯は自転車で動くこ

とも多いです。ちょっとお店に入る
ときに、まとまった駐輪場に置いて
子どもを連れて買い物に行くって現
实的ではなくて。溜まりの話もあり
ましたが、人が溜まる場が時間によ
っては自転車置き場になるとか、
もう少し日常的な余裕があった方が



UDCKでの議論の様子



信時アドバイザー

いいなということを感じています。

後藤 溜まり場をつくってもお金は生まないって言われちゃうんですよ。余白がないというのは辛いところだと思います。野口先生は西海^{さいかい}子で取り組んでいてどうですか。



後藤副センター長

野口（客席から） みんなの場所とかオープンスペースって広い場所が多いですけど、広いと難しいんです。体育館を自由に使っていていいと言われても、ど真ん中を使う人はいないですよ。そう考えると、意外とまちの中にすき間とか空地はあると思います。

後藤 稲益先生はイタリアのまちを研究されていますが、いかがでしょう。

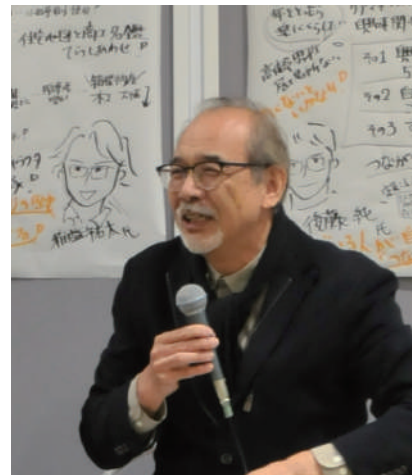
稲益（客席から） まちは住宅だけではなくて、いろいろな活動がある。商業・産業・集まるスペース、それらが集まってまちになっています。まちとして豊かな生活というのは、いろいろな場面があることが重要です。板橋にはそういった姿がまだあって、新陳代謝も起きています。

イタリアの古いまちを研究している中で、古いものを大切にすることだけではなくて、使っていて続くことが重要で、古い建物がまた新しい使い方をされている、これが本来の在り方かなと。こういったことが、まちのキャラクターを形成していくと思います。

後藤 観光のための観光のまちになってしまうと寂しいですよ。住民の皆さんが風情を残していける余地が必要ではないか、ということですよ。

作山先生から、こういう風情をこのように住民でつくっていけばいいよというお話をお願いします。

作山 若い人がどうしたいか。特に高校生ですよ。私は茨城の日立市出身ですが、高校生の時に海が近いけど海が見えないなって気になっていた。大人になってから機



作山ディレクター

会があり、同じ日立市出身の妹島和世さんと、海が見える、駅の自由通路を造った。高校生の時からの思いがあって、なんですね。だから高校生の居場所をもう少しつくってほしい。

それは単に図書館をつくれればいいということではなくて、三の丸ホールの中の芝を部分的でもいいから自由に使っていていいよとか。お城という歴史的背景が常に見える場所で自分たちの青春時代を過ごした、ということが自分のまちへの誇りを育てる。そういう若い人たちの意見を聞きたいし活動してほしい。だから、若者の居場所をまちなかにつくってほしい。アーバンデザインセンターがまちなかにあれば居場所にもなりますね。

後藤 中津川さん、小田原駅前ももうちょっとこうなったらいいんじゃないの、というのはありますか。

中津川 UD 研究の打合せの帰り 20 時半くらいに、とても小さいテーブルで高校生3人が勉強していたんですよね。小田原は高校が多いですが、これが現状。自分が高校時代にまちなかで勉強する場所があったらと想像すると、「ここで勉強した」「小田原で育った」というシビックプライドが身に付いてくるのかなと思います。



市民研究員 中津川さん

後藤 市長から見て、小田原らしいコミュニティとか、これから仕掛けていきたいことがあれば。

加藤 これから先は「こういうまち

で暮らしたい、こういうまちで育みたい」という、思いからつくっていくプロセスが必要だと思っています。そういう意味では、新しい建物を造るだけではなくて、既存のものを生かし、そこを持っている方が自分の場所を開いていくということでもいいと思います。

ハードの問題もあるけれども、暮らし方とかソフトにまつわる観点からの考え方が重要だと思います。今まで暮らしてきた小田原への先入観にとらわれることなく、今からこういうまちをつくっていくというのを市民から言っていただく、それを形にしていく。行政がお金を使って変えていくスペースもあるかもしれないけれども、それ以外に中心市街地のちょっとしたものを路地的に仕立て直していくなどの工夫もできると思います。

このあたりを UDCOD の先生方



加藤市長

にもアイデアをいただいて。それで市民も気が付くこともあると思うんですよね。そこに向かって UDCOD の役割が出てくると、双方向にコミュニケーションができて、伸びていくことが多々あると思います。

いずれにしても、豊かさとか幸せといったことを考えるときに、今のまちの中を市民の側から見直してみるということを打ち出していけるといいと思っています。

市民がまちを変えていくために

後藤 自分のものを開いていくというお話がありましたが、市民の皆さん一人一人が、それぞれ裁量とかアイデアとかそういったものを貸していくというような、そういうコミュニティづくりなのかもしれないですね。

信時先生、住民がまちを変えていくというところで、どんなことが重要でしょうか。

信時 人に人格があるように、都市にも「都市格」があると言ってい

ます。「あなた誰?」と言ったときに、私はどこどこ出身で……と、その人の歴史を知るわけですね。だからまずは、小田原の方々が小田原の歴史をしゃべれるようになった方がいいと思うんですね。

国際人って何かというと、英語をしゃべれることではないですね。何をしゃべるかっていうコンテンツが重要なんですね。そういう時に「小田原ってこの僕の出身地はこんなところだよ」って1時間くらいしゃべってみたら絶対尊敬されるし、ルーツのある人だと思われてリーダーシップも上手くいく。

それぞれが小田原の何を宝だと思っているかを、ぜひ話し合ってほしい。すぐにインバウンドというけど、自分たちのためにやりましょうよ。自分たちがやって好きなら外国の人

も好きになりますよ。

まず、小田原のことを好きになって、それをとうとうしゃべる。そこからだと思います。

後藤 市長は福祉やコミュニティなど人に注目して考えられていると思います。若い人に向けて小田原をこう使ってほしい、こういうことをやってほしい、ということはありますか。

加藤 それはいっぱいありますよ。小田原の人は、これが当たり前でやってきて特別なことと思っていないかもしれませんが、こんなに恵まれたところはないと思います。信時先生のおっしゃるとおりです。

豊かさを常に意識してほしいし、意識してもらえるような情報発信を

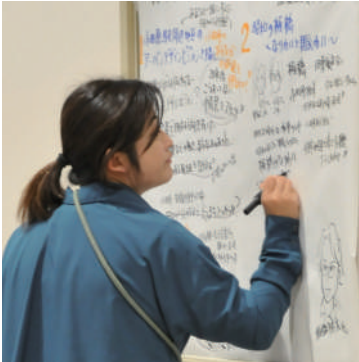
していきたいし、そういったことを受け止めてくださる皆さんの動きにできるだけ寄り添いたいと思います。

はっきり言ってこれから先の時代は難しいことが多いです。でもそれを突破していけるだけの力とポテンシャルが、小田原にはあると思っています。ここに来れば豊かな暮らし、幸せな暮らしは必ずできると私は確信しているので、つかみ取ってほしい、その形を見出してほしい。それをまちづくりの中でやっていただきたいと思うし、先生方もゼミ生も小田原をフィールドにしてもらえたらうれしいと思いますね。

後藤 アーバンデザインセンター、頑張ってください。これでパネルディスカッションを終わります。

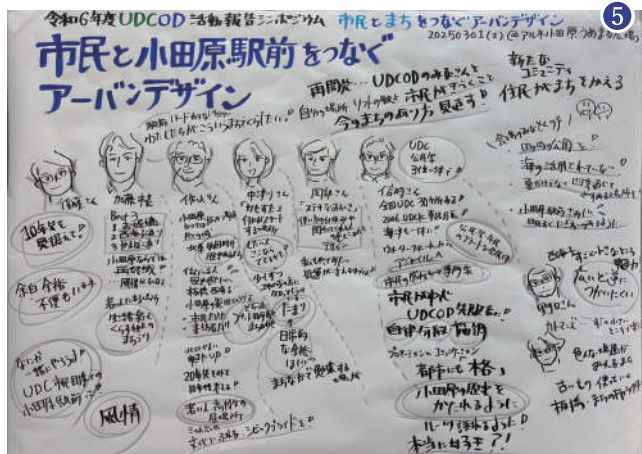
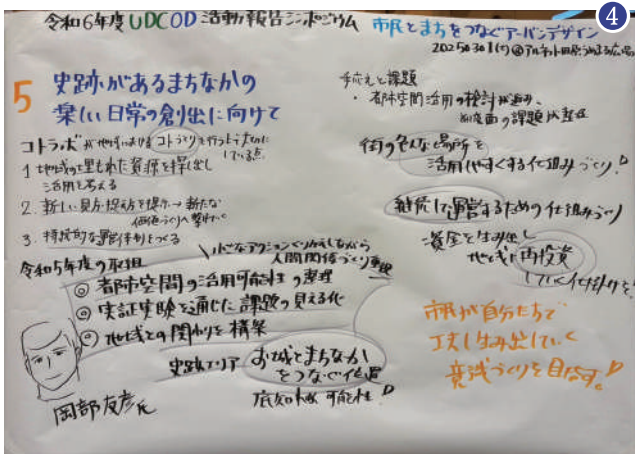
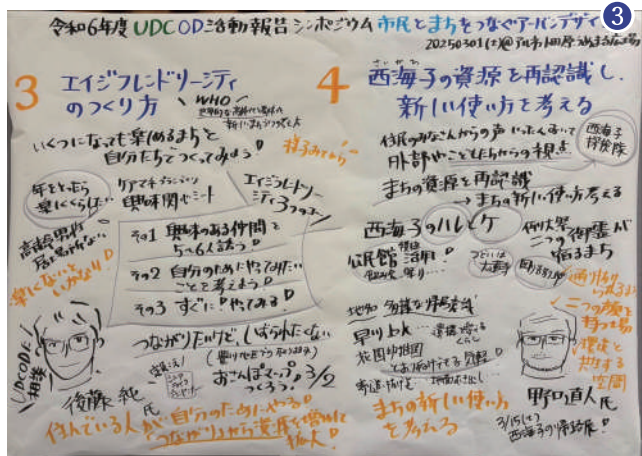
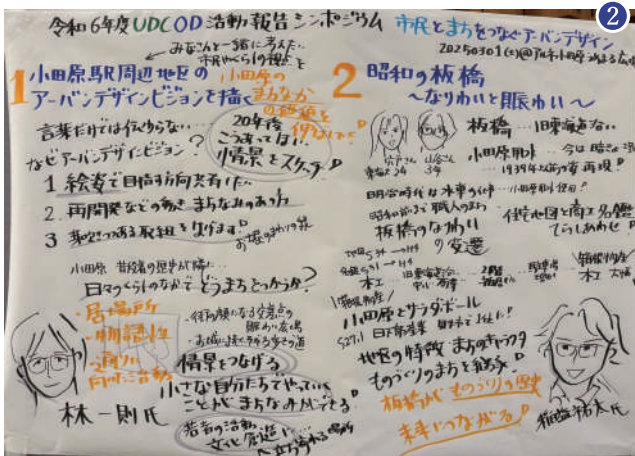
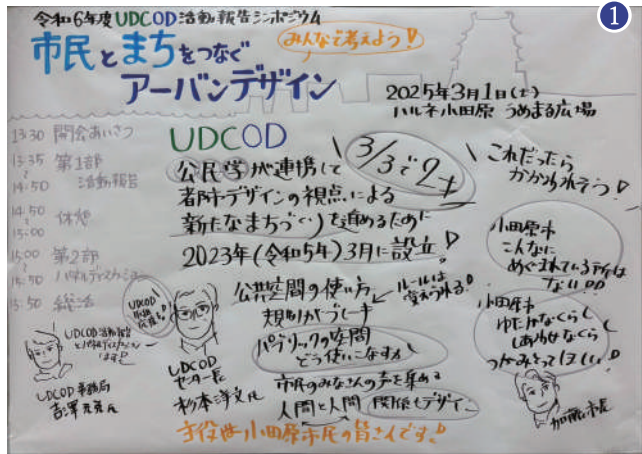


グラフィックレコーディング



シンポジウムの要旨を、
その場で記録していただき
ました。

グラフィックレコーダー
石本さん

シンポジウム
関連企画

活動報告パネル展

- 2025年2月25日～28日
小田原市役所市民ロビー
- 2025年3月1日～11日
ハルネ小田原



UDCOD 推薦図書の展示

- 2025年2月1日～4月7日
小田原市立中央図書館
- 期間中の貸出 延べ71冊



令和6年度スタッフ

センター長 杉本 洋文・元東海大学教授

副センター長 後藤 純・東海大学建築都市学部 准教授

エグゼクティブアドバイザー 信時 正人・(一社)UDCイニシアチブ 理事

UD研究

ディレクター：杉本 洋文、作山 康・芝浦工業大学システム理工学部 教授、林 一則・(特非)アーバンデザイン研究体 理事

研究員：五十嵐 敦子、中津川 毬江、梶村 駿介、福田 桃寧、吉澤 元克、細谷 夢津美

都市形成史研究

ディレクター：稲益 祐太・東海大学建築都市学部 准教授

東海大学 建築学科：浅見 彩夏(3年)、梶村 駿介(3年)、廣瀬 美紅(3年)、山谷 謙太(3年)、宍戸 あかね(2年)

(特非)小田原まちづくり応援団：池田 啓司

エイジフレンドリーシティ研究

ディレクター：後藤 純

東海大学大学院 建築土木学専攻：長岡 拓(1年)、生島 駿大(1年)

東海大学 建築学科：山岸 未侑(4年)、岩下 勇斗(4年)、中村 広幸(4年)、安保 創晟(4年)、落合 玲香(3年)

西田 梨々花(3年)

日本女子大学 教育学科：早川 媛花(3年)

西海子小路周辺地区のまちづくり支援

ディレクター：野口 直人・東海大学建築都市学部 講師

東海大学大学院 建築土木学専攻：津村 翔(2年)、庭山 隼輔(2年)、猿山 綾花(1年)

東海大学 建築学科：牧田 咲花(3年)、田畑 花梨(3年)、武田 泉希(3年)、小池 雅斗(3年)

事務局 (小田原市都市政策課) 秋澤 憲彦、吉澤 元克、山口 洋平、細谷 夢津美、渡邊 佳織



UDCOD令和6年度活動報告書

ANNUALREPORT 2024

令和7年(2025年)6月発行

編集・デザイン UDCOD事務局

発行 UDCOD

発行責任者 杉本洋文

本冊子の文章、写真、イラスト等の無断転用を禁じます
Copyright by Urban Design Center Odawara

